

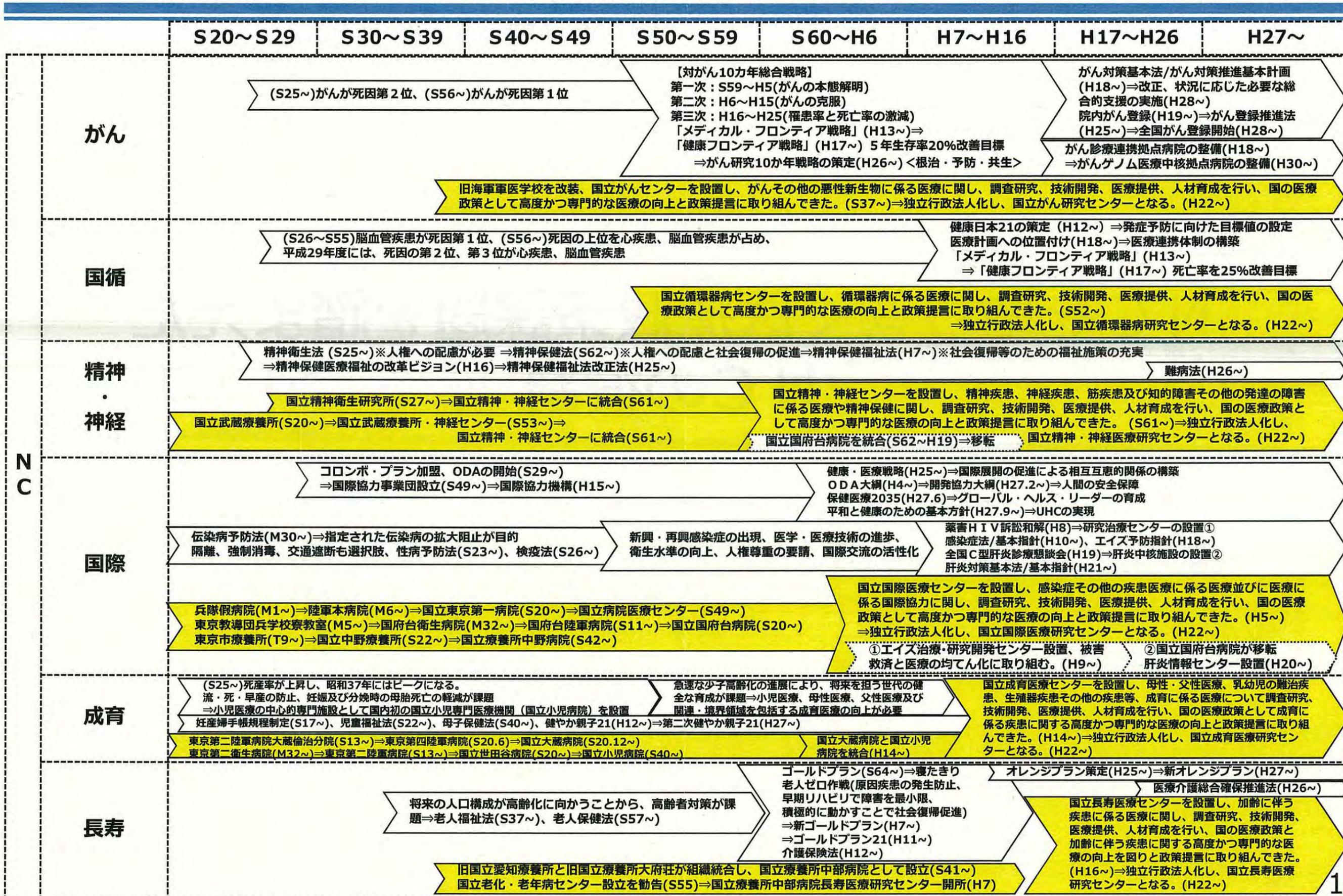
平成30年6月29日

第4回 国立高度専門医療研究センターの
今後の在り方検討会

資料2

NCを取り巻く医療政策課題を踏まえた NCの役割

NCと医療政策の関係 (イメージ)



医療政策上の主な課題と各N Cの役割と取組

国立がん研究センターを取り巻く医療政策課題と取組等①

	研究開発	医療提供	人材育成	情報発信・その他
背景	(背景) 昭和25年から死因第2位、昭和56年から死因第1位となった「がん」について、本態解明、治療法・治療薬の開発、高度な医療の提供、がん医療の均てん化、人材育成等が課題			
これまでの医療政策	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がんの本態解明</u> ● <u>治療薬・治療法の開発</u> ● <u>早期発見</u> ● <u>予防法の確立</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>死亡率の減少、生存率の向上</u> ● <u>放射線療法や化学療法の推進、質の高いがん医療の提供</u> ● <u>患者・家族の苦痛軽減</u> ● <u>緩和ケア、在宅医療の充実</u> ● <u>診療ガイドラインの作成</u> ● <u>医療機関の整備</u> ● <u>希少がん対策</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>人材の育成</u> ✓放射線療法、化学療法を中心に育成 ✓基本的な緩和ケアが提供できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん医療に関する相談支援・情報提供体制の充実</u> ● <u>がん登録の推進</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん研究10か年戦略の策定</u> ● <u>ドラッグ・ラグの解消</u> ● <u>多目的コホート研究支援による予防法の確立</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん診療連携拠点病院の整備</u> ● <u>希少がん医療・支援のあり方検討</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>国立がん研究センターにおける研修の実施</u> ● <u>がんプロフェッショナル基盤養成プランの実施</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん対策基本法に基づくがん情報サービスの開始</u> ● <u>相談支援センターの整備</u> ● <u>がん登録の法制化</u>
NCが果たしている役割(代表例)	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がんの本態解明</u> ✓国際がんゲノムコンソーシアムに参加し、アジア地域において胃がん、肝臓がん、胆道がんのゲノムデータを集積 <ul style="list-style-type: none"> ・肝臓がんや胆道がんについて、新たな治療標的となりうる新規ゲノム異常や発生部位ごとの特徴を解明 ✓がんの原因としての遺伝子異常の解明 <ul style="list-style-type: none"> ・肝臓がん、肺線がん、十二指腸乳頭部がん、成人T細胞白血病・リンパ腫、肉腫の遺伝子解析を実施し、遺伝子異常等を解明 ・革新的なハイスループット遺伝子変異機能解析手法を開発 ✓環境がゲノムに与える影響を評価 <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙が複数の分子機構を介してDNA変異を誘発していることを解明 ✓原因遺伝子の発見に基づく創薬 <ul style="list-style-type: none"> ・RET遺伝子融合(希少がんのRET肺がんの遺伝子異常)の同定、臨床試験 ・RPN2(乳がん治療抵抗性に関わる遺伝子)の発現を抑制する治療薬の開発、臨床試験 ・変異型IDH1(白血病・脳腫瘍・胆道がん・軟骨肉腫等の要因)阻害剤の開発、臨床試験 ・製薬企業との連携による腫瘍微小環境の分子機構の解明とTR/rTR研究の推進(GAPFREE) ● <u>治療薬・治療法の開発、早期発見</u> ✓臨床研究中核病院、がんゲノム医療中核拠点病院に指定(2病院) ✓産学連携全国がんゲノムスクリーニングプロジェクト(SCRUM-Japan)において、肺がん・消化器がん患者の血液を用いた遺伝子解析を平成29年度から開始 ✓希少がんのレジストリ構築とバイオマーカーに基づく治療開発の基盤整備(MASTER KEY Project) ✓医療機器、術式の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡の診断補助機能としての初の薬事承認(酸素飽和度イメージング内視鏡) ・ヘリカル(らせん状)CTの開発によるCT検査技術の標準化 ・瞬温存十二指腸切除術の開発、鏡視下手術の適応拡大に伴う手技、機器の開発等 ・AIを活用したリアルタイム内視鏡診断サポートシステムの開発 ✓検査方法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・膵がん早期診断の血液バイオマーカーの発見 ・免疫状態を測定する新手法の開発、遺伝子パネル検査試薬の開発 ・体液中のマイクロRNA測定技術基盤に基づき、多種類がんに対する感度特異度の高い早期診断法の開発 ● <u>予防法の確立</u> ✓ピロリ菌による胃がん発生機序を解明 ✓多目的コホート研究・次世代多目的コホート研究によるエビデンスの創出(300報以上) <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、胃がんの家族歴、高塩分食品の摂取、ピロリ菌の感染状況に基づき胃がん罹患を予測するモデルを構築等 ✓ゲノム情報などバイオマーカーを取り入れた個別化予防法を開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>死亡率の減少、生存率の向上(統計集計)</u> ✓年齢調整死亡率の減少:人口10万対92.4(2005)→78.0(2015)、16%減 ✓5年生存率の向上:53.2%(1993-96)→62.1%(2006-08) ● <u>放射線療法、化学療法の推進</u> ✓国内発の陽子線治療 ✓外来化学療法を約70,000件以上実施 ✓質の高いがん医療の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・国内最多の肺がんの切除数 ・困難症例を含む食道がん、胃がん、大腸がんに対する内視鏡治療を年間約9,000件以上実施(世界トップレベル) ・患者の負担が少ないIVR(画像下治療)を年間約6,000件以上実施(世界トップレベル) ● <u>患者・家族の苦痛軽減、緩和ケア、在宅医療の充実</u> ✓患者・家族の苦痛軽減・生活支援のための多職種支援部門の設置 ✓アピアランス支援センターによる外見症状への対応 ✓緩和ケア病棟の取組 ● <u>診療ガイドラインの作成</u> ✓各種ガイドライン作成委員として貢献 ● <u>希少がん対策</u> ✓希少がんセンター、希少がんホットラインの設置 ✓病理コンサルテーション(全国の病理医からの相談受付)を実施 ✓希少がん対策WGにて質の高い医療を提供する医療機関等の情報発信等を実施 ● <u>特定機能病院に指定(2病院)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>人材の育成</u> ✓昭和44年からがん専門医のレジデント制度を導入し、これまでに全国でがん医療を担う1,400名以上の医師を育成 ✓全国のがん拠点病院の院長、部長等を70名以上輩出 ✓全国の大学病院の教授等を50名以上輩出 ✓都道府県の指導者(看護師、薬剤師、化学療法チーム、緩和ケアチーム)6,000人以上を育成 ✓他では実施できないがん医療実務者育成:がん専門相談員3,500人以上、院内がん登録実務者14,000人以上 ✓教育サイト(ICRweb)を運営し、累計65,000人以上の登録者に教育を提供、累計37,000人以上に修了証を発行 ✓海外からの研修(外科手術、内視鏡治療等)を、積極的に受け入れ(平成29年194人) 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん医療に関する相談支援・情報提供、がん登録</u> ✓がん情報サービスによる情報発信 ✓予防法の発信(がん対策推進基本計画に反映) ✓科学的根拠に基づいた正しい医療情報の発信等 ● <u>国際的取組</u> ✓先進的ながん医療について、各国からの留学生に対する研修を実施(毎年約100名以上) ✓国際共同医師主導治療の実施等 ● <u>政策提言の実施</u> ✓対がん10カ年総合戦略、がん対策推進基本計画等国の政策の策定に向けたエビデンスを提供 ✓各種審議会・検討会の座長、構成員等として参画 ✓喫煙による健康被害について科学的根拠を提供等

国立がん研究センターを取り巻く医療政策課題と取組等②

	研究開発	医療提供	人材育成	情報発信・その他
医療政策上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん本態解明に関する研究</u> ✓ゲノム解析やAIを含めた情報通信技術等をがん医療に応用した革新的な診断・治療法の開発 ● <u>希少がん対策</u> ✓基礎的研究の支援、効率的な臨床研究の実施(中核医療機関の整備) ● <u>難治性がん対策</u> ✓ゲノム医療やリキッドバイオプシー(腫瘍等の生検を使わず、血液等から抽出したがん細胞等のDNAを使った診断)を用いた低侵襲性診断技術や早期診断技術、治療技術等の開発 ✓アジアに多いがんを中心とする治療開発の国際的協同体制構築 ● <u>小児がん、思春期・若年成人(AYA)世代、高齢者世代のがん対策</u> ✓晩期合併症(がん、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症)への対応 高齢者のがん診療ガイドライン作成 等 ● <u>公衆衛生、政策形成等に関する公的な研究の推進</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がんの特性ごとの医療の均てん化・集約化及び効率的な医療の実現</u> ✓標準的な手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法、緩和ケア等の提供、チーム医療の推進、支持療法、リハビリテーション 等 ● <u>AIやビッグデータを活用したゲノム医療等の推進による患者本位のがん医療の実現</u> ✓がんゲノム医療中核拠点病院の整備 ✓がんゲノム知識データベースの構築 等 ● <u>希少がん対策</u> ✓臨床的エビデンスの創出、診療ガイドラインの整備と普及(中核医療機関の整備) ✓ゲノム医療の推進、手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法の充実 ● <u>難治性がん対策</u> ✓有効性の高い診断法・早期発見法・治療法を速やかに提供できる体制整備 ● <u>がん患者が住み慣れた地域社会で生活できる環境の整備</u> ✓効率的な医療・福祉サービスの提供、就労支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>人材の育成</u> ✓がん医療を専門とする医療従事者の養成 ✓希少がん・難治性がんの専門的人材の育成 ✓ライフステージに応じたがんへの対応ができる医療従事者等の育成 ✓就労支援に携わる人材の育成 ✓新しい専門職の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実による死亡率の減少</u> ✓確かながん予防・検診法の普及・啓発 ✓推奨される検診の受診率向上と精度管理の徹底 ● <u>がん教育・がんに関する知識の普及啓発、患者・家族への相談支援</u> ✓全国がん登録情報の公表による、正確な情報に基づくがん対策の立案・各地域の実情に応じた施策の実施 ✓患者、家族等への相談支援 ✓必要な情報にアクセスできる環境の整備 ✓ピア・サポートの普及 等 ● <u>希少がん・難治性がん対策</u> ✓情報の集約・発信、正確・迅速な病理診断の提供体制の整備 ✓拡大治験制度、最先端医療迅速評価制度、患者申出療養制度について患者・医療従事者への周知 ● <u>就労支援対策</u> ✓がん相談支援センターの相談の質の確保 ✓治療と仕事両立プランの作成 等
NCの具体的な取組や計画(代表例)	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がん本態解明に関する研究</u> ✓がんゲノム情報管理センターを平成30年6月に設置し、日本人の臨床ゲノム情報基盤を構築 ● <u>希少がん、難治性がん対策</u> ✓希少がんのレジストリ構築とバイオマーカーによる治療開発の基盤整備(MASTER KEY Project)の本格運用 ✓産学連携全国がんゲノムスクリーニングプロジェクト(SCRUM-Japan)の更なる拡充 ✓標的に合わせた薬剤開発や効果的薬剤選択を可能にするシステム開発を行い、非臨床試験を実施(J-PDXライブラリー等) ✓アジアでの国際共同治験や臨床開発を主導 ● <u>小児がん、思春期・若年成人(AYA)世代、高齢者世代のがん対策</u> ✓特徴的な遺伝子等を解明し、予後・QOLの飛躍的な改善を目指した革新的な予防・診断・治療法の開発に資する研究を推進 ● <u>公衆衛生、政策形成等に関する公的な研究の推進</u> ✓エビデンス・プラクティスギャップを埋めるための普及・実装開発、医療技術評価等 ✓第3期がん対策推進基本計画でのがん施策の進捗を評価する指標の開発等 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>がんの特性ごとの医療の均てん化・集約化及び効率的な医療の実現</u> ✓引き続き最先端かつ高度な医療を提供しつつ、各地域の拠点病院における取組の更なる改善を図るため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会及び部会を開催 ● <u>AIやビッグデータを活用したゲノム医療等の推進による患者本位のがん医療の実現</u> ✓医学AI開発を行い、AIを用いた先端がん創薬・個別化医療研究を推進 ✓網羅的遺伝子パネル検査(NCCオンコパネル)によるゲノム解析に基づく最新の個別化医療の実装を推進(TOP-GEAR) ● <u>低侵襲治療の開発</u> ✓内視鏡、IVR、高度放射線治療等を開発 ● <u>希少がん・難治性がん対策</u> ✓希少がん中央機関に指定 ✓病理コンサルテーション(全国の病理医からの相談受付)を引き続き実施しつつ、最新・最適な診療を提供 ✓小児がん全般に対する標準治療の提供を行うとともに、網膜芽細胞腫及び肉腫等の特に希少ながんに対しては集学的治療を提供 ✓小児がんにおける免疫チェックポイント阻害薬(抗PD-1抗体)の共同研究・開発、医師主導治験を実施中 ✓急性リンパ性白血病に対し、プロテアソーム阻害剤を併用した多剤併用療法の医師主導治験を実施中 ✓難治性がんに対する早期診断・治療法を開発 ● <u>がん患者が住み慣れた地域社会で生活できる環境の整備</u> ✓サポート型ケアセンター等により、多職種・地域・社会と協働で支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>人材の育成</u> ✓引き続き、全国の医療従事者を対象とした専門的な研修を実施 ✓新専門医制度に対応したプログラムで、引き続き全国から集まる医師を養成 ✓臨床研究の適正な実施を支えるため、臨床試験支援業務に従事する人材を養成 ✓全国のがん相談支援センター・がん専門相談員の継続的な質の向上を目指した認定制度 ✓地域における相談支援向上のためのフォーラム開催を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実による死亡率の減少</u> ✓禁煙、肝がん予防などに関する普及・啓発 ✓必要ながん検診の質向上のため、以下の研究を推進 ・がん検診の精度管理指標の基準値(目標値、許容値)改訂による適切性評価 ・がん登録を利用した精度管理手法提示 ・都道府県生活習慣病等管理指導協議会を活用した精度管理 等 ● <u>がん教育・がんに関する知識の普及啓発、患者・家族への相談支援</u> ✓相談支援に関するWGを開催し、全国のがん相談支援センターでの活動の進捗確認や評価、支援が必要な活動等を決定 ● <u>希少がん・難治性がん対策</u> ✓希少がんや全国の医療機関の状況等についてもより分かりやすく情報を発信 ● <u>就労支援対策</u> ✓働く世代に向けた「がん就労コンテンツ」の作成、様々な媒体による啓発 ● <u>政策提言の実施</u> ✓引き続き施策に直結するエビデンスを構築し政策提言を実施

国立循環器病研究センターを取り巻く医療政策課題と取組等①

	研究開発	医療提供	人材育成	情報発信・その他
背景	<p>(背景) 昭和26年～55年の死因第1位が脳血管疾患であり、昭和56年以降も死因の上位を心疾患、脳血管疾患が占め、平成29年には死因の第2位、3位が心疾患、脳血管疾患であるなど、循環器病の治療法の確立、予防の推進、医療の均てん化、人材育成等が課題</p>			
これまでの医療政策 <small>主な課題</small> <small>対主な</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高度な医療の提供(救急医療体制(SCU)の整備) ● 切れ目のないリハビリテーションの推進・医療と介護のリハビリテーションの連携強化 ● 循環器病の罹患率及び死亡率を低下(死亡率を25%低下) ● 健診による早期発見、重症化予防 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民への普及・啓発
NCが果たしている役割(代表例)	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ✓Na利尿ペプチドファミリーペプチドの同定 <ul style="list-style-type: none"> ・心不全の診断薬・治療薬の開発 ・血管内再狭窄の予防薬に繋がる可能性 ・心筋梗塞後の心臓肥大と線維化の改善に繋がる可能性 ・腎機能維持に繋がる可能性 ・がん細胞の血管への接着を防ぎ、がん転移を抑制する可能性 ✓グレリン(成長ホルモン分泌促進ペプチド)の同定 <ul style="list-style-type: none"> ・摂食亢進機能の増大に関与し、慢性閉塞性肺疾患患者へのグレリン投与により、呼吸筋力と栄養状態の改善を証明 ・慢性心不全患者の左室機能および運動能力、筋消耗を改善を証明 ✓補助人工心臓の開発(国循型) ✓脳動脈瘤治療用多孔性カバードス TENT (NCVC CS-1、難治性の巨大脳動脈瘤をワンデバイスで完治できる世界初の医療機器)の開発 ✓人工血管の開発 ✓循環器疾患の発症リスクの予測や重篤化防止のため、人工知能(AI)を用いるプロジェクトの開始 ✓バイオマーカー/生体イメージングを活用した先制医療の開発 ✓国内唯一の都市型コホート研究(吹田研究) <ul style="list-style-type: none"> ・都市部での循環器疾患の発症要因を解明 ・各種政策の科学的根拠として広く活用 ✓循環器疾患診療実態調査(JROAD) <ul style="list-style-type: none"> ・全国の循環器専門医研修施設・研修関連施設の登録率は100% ・DPC対象施設の循環器疾患(急性冠症候群・心不全等)に関する、入院から退院までの診療データベースを構築 ✓日本脳卒中データバンク <ul style="list-style-type: none"> ・17年間で約16万例の症例蓄積 ・全国98施設から年間約10,000例を集積 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療計画への位置付け(医療提供体制・連携体制の構築) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係学会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係学会との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ✓Na利尿ペプチドファミリーペプチドの同定 <ul style="list-style-type: none"> ・心不全の診断薬・治療薬の開発 ・血管内再狭窄の予防薬に繋がる可能性 ・心筋梗塞後の心臓肥大と線維化の改善に繋がる可能性 ・腎機能維持に繋がる可能性 ・がん細胞の血管への接着を防ぎ、がん転移を抑制する可能性 ✓グレリン(成長ホルモン分泌促進ペプチド)の同定 <ul style="list-style-type: none"> ・摂食亢進機能の増大に関与し、慢性閉塞性肺疾患患者へのグレリン投与により、呼吸筋力と栄養状態の改善を証明 ・慢性心不全患者の左室機能および運動能力、筋消耗を改善を証明 ✓補助人工心臓の開発(国循型) ✓脳動脈瘤治療用多孔性カバードス TENT (NCVC CS-1、難治性の巨大脳動脈瘤をワンデバイスで完治できる世界初の医療機器)の開発 ✓人工血管の開発 ✓循環器疾患の発症リスクの予測や重篤化防止のため、人工知能(AI)を用いるプロジェクトの開始 ✓バイオマーカー/生体イメージングを活用した先制医療の開発 ✓国内唯一の都市型コホート研究(吹田研究) <ul style="list-style-type: none"> ・都市部での循環器疾患の発症要因を解明 ・各種政策の科学的根拠として広く活用 ✓循環器疾患診療実態調査(JROAD) <ul style="list-style-type: none"> ・全国の循環器専門医研修施設・研修関連施設の登録率は100% ・DPC対象施設の循環器疾患(急性冠症候群・心不全等)に関する、入院から退院までの診療データベースを構築 ✓日本脳卒中データバンク <ul style="list-style-type: none"> ・17年間で約16万例の症例蓄積 ・全国98施設から年間約10,000例を集積 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高度な医療の提供 <ul style="list-style-type: none"> ✓心臓移植治療の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・心臓移植症例111名は国内最多 ・10年生存率は95.7% ・移植待機のための植込型補助人工心臓(VAD)100名超え、3年生存率は93% ・日本に二つしかない組織移植バンク(自施設使用と SHIPPING(他機関への提供)) ✓低侵襲治療の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術、ロボット手術、血管内治療 ✓rt-PA療法の導入・普及 <ul style="list-style-type: none"> ・日本初の臨床試験(J-ACT試験)の企画・運営に主体的に関与 ・適正治療指針初版の作成に関与 ・承認後初期600例解析、有効性・安全性を証明 ・ガイドライン作成に貢献 ・虚血性脳血管障害患者に対するrt-PA療法適応時間延長(発症3時間→4.5時間)に関する治療指針改訂に関与 ✓国内初のSCU(脳卒中集中治療室)設置、その有用性の証明と普及 ✓脳血管障害の血管内治療の先導的導入 ✓脳動脈瘤へのカバードス TENT 開発治療 ✓急性脳虚血への最先端迅速灌流画像評価システムの国内導入と普及 ✓脳卒中合併大動脈解離、大動脈狭窄と狭心症に対する同時手術、胎児と母体疾患への対応、脳腎連関の解明、ビックデータとAIを活用した発症重症化予測 ✓内科外科合同での脳血管障害診療方式の導入と実践 ✓希少疾患・難病への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症、もやもや病等の治療、マルファン症候群、家族性高コレステロール血症等の遺伝学的疾患の検査・治療 ✓災害発生時の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災における、循環器病予防のための支援活動(減塩・循環器病予防プロジェクト) ・熊本地震における、エコノミッククラス症候群に対する診療支援、被災地から送られたエコー画像を遠隔診断できるシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓創設後40年間で海外の大学(4名)を含めて214名の教授を輩出 ✓創設～平成30年度のレジデント・専門修練医採用者数2,020名 ✓昭和53年から脳卒中診療を専門とする内科医師の育成を開始 <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管内科・脳神経内科・脳神経外科合同で急性期から維持期の治療方針決定 ・内科・外科若手医師育成→内科外科合同診療普及→適切な治療普及 ✓経カテーテル大動脈弁植込術(TAVI)、低侵襲僧帽弁形成術等の研修受入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民への普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ✓循環器病情報サービスにより、循環器病の様々な情報を提供、月間アクセス数は500万件以上 ✓循環器病情報の普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行、メディア向けニュースレターの発行、プレスセミナーの開催 ・市民公開講座の開催 ・包括的脳卒中啓発プログラムの作成 ・「国循科学・医療フェスタ(国循フェスタ)」の開催等 ● 政策提言の実施 <ul style="list-style-type: none"> ✓各種審議会・検討会の座長、構成員等として参画 ✓虚血性脳血管障害患者に対するrt-PA静注療法適応時間延長(発症3時間→4.5時間)に関する治療指針改訂に関与

国立循環器病研究センターを取り巻く医療政策課題と取組等②

	研究開発	医療提供	人材育成	情報発信・その他
医療政策上の課題 主な今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ✓ゲノム解析やiPS細胞を活用した、遺伝子疾患の本態解明と創薬 ✓再生医療の推進による、罹患後の神経機能、心機能の維持、回復 ✓同定された原因遺伝子等による発症予防や高精度診断の実現 ● 脳卒中対策 <ul style="list-style-type: none"> ✓rt-P A療法適用時間の拡大(脳血管保護薬の開発等)等 ● 心血管疾患対策 <ul style="list-style-type: none"> ✓体に負担の少ない手術法の開発 ✓人工心臓の開発等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 脳卒中の急性期診療の均てん化 <ul style="list-style-type: none"> ✓rt-P A療法の実施率の向上(急性期脳梗塞への実施率は約5%にとどまる) ✓医療機関間の連携強化(遠隔診療の活用等)によるrt-P A療法を含めた専門的医療を提供する体制の整備 ● 脳卒中の回復期～維持期の診療提供体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓速やかで個々の患者の状況に応じた回復期リハビリテーションの提供 ✓合併症への対応 ● 心血管疾患の急性期診療の均てん化 <ul style="list-style-type: none"> ✓医療機関間の連携強化(ICTの活用等)による専門的医療を提供する体制の整備(外科的治療も緊急で常時可能な施設は地域によっては限られているため、疾患によってはより広域のネットワーク体制を構築) ● 心血管疾患の回復期～維持期の診療提供体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓心血管疾患リハビリテーション実施率の向上 ✓多職種が連携できる体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓循環器病の多職種連携に関わる人材 ✓地域包括ケア・在宅医療の普及をリードする人材 ✓チーム医療のリーダーとなる人材等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民への普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ✓脳卒中・心血管疾患の前兆、症状、発症時の対処法等に関する教育・啓発等
NCの具体的な取組や計画(代表例)	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発、脳卒中・心血管疾患対策 <ul style="list-style-type: none"> ✓革新的な医薬品・医療機器等開発の推進のためのプラットフォームとして「オープンイノベーションセンター」を設置 ✓世界最小・最軽量・最高性能の超小型呼吸循環補助システム(ECMOシステム)の開発、医師主導治験を予定 ✓発症時刻不明急性期脳梗塞におけるrt-P A療法の有効性を検討中 ✓心原性ショック患者の治療選択のための体外設置型VADの開発と医師主導治験開始 ✓希少循環器疾患(肺高血圧症、川崎病、サルコイドーシス)の病態解明 ✓遺伝性循環器疾患(遺伝性不整脈、家族性高脂血症、マルファン症候群)の病態解明 ✓心不全での交感・副交感神経関与の病態解明 ✓ビッグデータの収集・解析・情報発信等を通じた循環器病対策の基盤の充実 ✓循環器疾患分野における臨床研究の主導的役割 ✓新規医療技術の費用対効果評価 	<ul style="list-style-type: none"> ● 脳卒中・心血管疾患の急性期診療の均てん化 <ul style="list-style-type: none"> ✓国内屈指のrt-P A療法の実績を踏まえた、地域における専門的医療を提供する体制の整備 ✓難治性希少疾患であるヘパリン起因性血小板減少症(HIT)について診断確度の高い検査方法を開発し、全国規模の診断・治療のコンサルテーションを年1,000回以上実施 ✓移転建替後はヘリポートを整備し、ドクターヘリの受入に対応、ドクターカーの更なる活用 ● 脳卒中・心血管疾患の回復期～維持期の診療提供体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓急性期から回復期、維持期、再発防止まで、切れ目のない適切な医療の提供を目指し、連携登録医療機関数を増やし、入院から地域ケアまで一貫した支援を実施 ✓急性心筋梗塞等の心疾患・脳卒中・糖尿病患者を対象とする退院後の地域医療連携バスを推進し、QOLの向上・再発予防・長期予後の改善を目指した地域医療連携モデルを構築 ✓医師・看護師・心理療法士・薬剤師などからなる多職種連携緩和ケアチームの体制強化を行うとともに、普及啓発を積極的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓全国の看護師への循環器病看護の研修を企画・実施 ✓循環器病領域の医療におけるリーダーとして活躍できる人材育成を推進 ✓モデル的な研修及び講習を実施し、循環器医療の均てん化を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・最先端の医療技術に関する研修を実施(慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術、高機能シミュレータを使用した血栓回収療法等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民への普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ✓引き続き、循環器病情報サービスや様々な媒体により、循環器病の様々な情報を提供 ● 政策提言の実施 <ul style="list-style-type: none"> ✓引き続き施策に直結する政策提言を実施

国立精神・神経医療研究センターを取り巻く医療政策課題と取組等①

	研究開発	医療提供	人材育成	情報発信・その他
背景	(背景) 精神疾患は、患者数が300万人以上となり、いわゆる4大疾患(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)よりも多い状況となっており、神経疾患とともに社会的コストが大きい。いずれも難治性・希少性があり、根治療法の開発が課題。			
これまでの医療政策	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神保健医療体制の整備 ● 急性期医療への対応 ● 社会復帰の促進、長期入院の適正化 ● 医療費の助成(神経疾患) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民への普及・啓発
	<ul style="list-style-type: none"> ● 科研費等による各種研究事業への支援 ● 薬物療法、認知行動療法 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療機関の整備、精神病床の機能分化 ● 地域移行の推進 ● 難病法の制定(神経疾患) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神保健指定医の指定 	<ul style="list-style-type: none"> ● ころの健康や病気、支援やサービスに関するウェブサイトを設置
NCが果たしている役割(代表例)	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療薬・治療法の開発 <ul style="list-style-type: none"> ✓患者登録システム(Remudy)、臨床試験ネットワークの整備(MDCTN)の構築 ✓主要な疾患・病態を網羅した疾患バイオバンクの構築 ✓未診断疾患イニシアチブ(IRUD)において、成人の未診断疾患の診断を行う中核的立場として貢献[AMED] <ul style="list-style-type: none"> ・3割以上の診断を確定 ・10以上の疾患で新規の原因を解明 ・8件について新規治療薬開発の可能性を発見 ✓筋ジストロフィーのエクソスキップ治療薬の開発、日米で臨床試験中 ✓多発性硬化症における治療薬の開発、臨床試験中 ✓精神疾患バイオマーカーの開発、臨床試験中 ✓様々な疾患に対応する認知行動療法の開発 ✓薬物依存症に対する治療プログラムの開発(薬物依存の認知行動療法を開発し、均てん化を実施、有効性を証明し診療報酬改定に反映) ✓精神を主体とする研究所(精神保健研究所)、神経を主体とする研究所(神経研究所)、病院が揃った、世界でも類を見ない施設として、新たな発見に貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・脳内に存在する第3のガス性生理活性物質H₂S₃の発見と代謝経路解明 ・多発性硬化症類似の自己免疫性脳脊髄炎(NINJA)を世界に先駆けて報告 ・慢性進行型多発性硬化症に関わる病原性Eomes陽性Th細胞の発見 ・うつ病と食事および腸内フローラの関係の解明 ・様々な疾患に対応する認知行動療法の開発と減薬効果を含めた治療効果の検証 ・基礎研究段階において、睡眠障害が認知症の原因物質であるアミロイドβ蛋白質の蓄積の増加と関連することを証明 ・潜在的睡眠不足(睡眠負債)が、糖代謝、細胞代謝、ストレス応答などに関わる内分泌機能に影響し、生活習慣病等のリスクとなることを証明 ・睡眠障害等における人の体内時計の周期を簡便に測定する手法を開発 ・自閉症スペクトラム児の診断法や新たな治療法、病態解明につながる同疾患特有の聴覚過敏性を発見 ・皮膚筋炎の高感度バイオマーカーMxAの発見とその臨床応用 ・遠位型GNEミオパチーの動物モデル作製、シアル酸治療法の開発と国際共同治験の実施 ✓トランスレーショナルメディカルセンターを設置、臨床研究を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神保健医療体制の整備、急性期医療への対応 <ul style="list-style-type: none"> ✓認知行動療法の国内初・最大の施設として研究、臨床、研修、連携を実施 ✓希少神経難病症例の集積、専門的医療の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・国内患者の相当数に対して医療を提供(多発性硬化症(7.5%)、デュシェンヌ型筋ジストロフィー(9.1%)、より希少なGNEミオパチー国内患者(15%)) ✓国内初・最大の医療観察法の医療機関として、司法精神医療ネットワークを構築し、その中核施設として司法精神医療の均てん化等を実施 ✓11種類の専門疾病センターを設置し、診療科横断的、研究所・病院等組織横断的に医療と研究を実施 ✓精神医療における急性期医療を提供しつつ、地域精神科モデル医療センター取り組みにより包括的な精神科モデル医療を具体化 ✓措置入院の運用に関するガイドライン(厚労省通知)など様々な診療ガイドラインへの取り組み ✓精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進の手引の提供(厚労省通知) ✓精神障害者支援を実施する包括的支援マネジメント技法の開発(診療報酬に反映) ● 社会復帰の促進、長期入院の適正化 <ul style="list-style-type: none"> ✓地方公共団体による精神障害者の退院後支援に関するガイドラインの提供と普及活動 ● 自殺総合対策推進センター <ul style="list-style-type: none"> ✓各自治体の対策を指導、支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓神経・筋疾患分野について、希少疾患の高い集積性と多数の専門医による若手臨床医の育成及び、精神疾患分野について、司法精神、薬物依存、認知行動療法等他にない専門医療におけるそれぞれの専門家による育成指導(レジデント、専門修練医等の若手臨床医を年間50~60人程度受入) ✓国や地方自治体、病院などで精神保健の業務に従事する医療関係者などにおいてリーダーとして活躍できる人材の育成を目的に、精神保健研究所にて年間15課程からなる「精神保健に関する技術研修課程」を実施 ✓認知行動療法、パーキンソン病に対するリハビリ、医療観察法医療等様々な研修を実施しており、延べ2,000名以上が受講 ✓全国の依存症治療拠点機関の医療関係者等を対象に、研修会の立ち上げを支援し、全国31箇所の医療機関、32箇所の精神保健福祉センターで薬物乱用防止プログラムが実施できる体制を構築 ✓臨床研究の基礎・専門的知識、倫理、生物統計学に関する研修を実施し、臨床研究のリーダーとなる人材を育成 ✓製薬企業研究者を対象とした研修を実施し、産学連携を支援 ✓全国の小児神経科専門医1,202名のうち117名(10%)に研修を実施、てんかん専門医625名のうち72名(11.5%)に研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民への普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ✓ホームページにて各種疾患の病態、治療法等について最新情報を掲載 ✓市民公開講座の開催 ✓SNS、Youtubeの活用 ✓Annual Reportの発行 ✓患者・家族会との懇談会 ● 政策提言の実施 <ul style="list-style-type: none"> ✓各種審議会・検討会の座長、構成員等として参画 ✓DPATが現場支援を行うための具体的な活動マニュアルの素案を作成し、DPAT活動要領の改正に貢献 ✓危険ドラッグについて有害性周知、データ提供による麻薬指定 ✓精神疾患を伴う自殺未遂者ケア体制整備への提言(自殺企図後の精神疾患患者に対する継続的な指導が保険収載)

国立精神・神経医療研究センターを取り巻く医療政策課題と取組等②

	研究開発	医療提供	人材育成	情報発信・その他
医療政策上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神・神経疾患の本態解明、根本的治療法の開発 ● 多職種で効果的かつ効率的に活用できる包括的支援マネジメント手法を開発する研究 ● 難病対策の検討において必要となる難病の患者についての情報収集 ● 難病の患者の医療、生活実態及び生活上のニーズ等を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓多職種を雇用し地域に根ざして活動する精神科医療機関の拡充、多職種協働による包括的支援マネジメント ● 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓児童・思春期精神疾患、老年期精神障害等、自殺対策、依存症、てんかん、高次脳機能障害、摂食障害への対応 ✓精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村などとの重層的な連携による支援体制を構築 ● 精神病床のさらなる機能分化 <ul style="list-style-type: none"> ✓地域の精神保健医療福祉体制の基盤を整備 ● 神経疾患について、早期診断及び診断後に適切な医療を身近な医療機関で受けられる体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ✓難病の診断及び治療の実態を把握し、医療機関や診療科間及び他分野との連携の在り方等について検討を行い、具体的なモデルケースの提示 ✓難病医療支援ネットワーク、指定難病患者データベースの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓医療と福祉の連携を推進する中核的人材の育成 ✓多職種(精神科医、保健師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、作業療法士、退院後生活環境相談員、相談支援専門員、サービス管理責任者、精神保健福祉相談員、行政職等)の育成 ✓難病に携わる医療従事者の養成、指定医の質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民・国民の理解の促進 ● 研究等で得られた情報の公開
NCの具体的な取組や計画(代表例)	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神・神経疾患の本態解明、根本的治療法の開発、情報収集、実態把握 <ul style="list-style-type: none"> ✓本態解明を目指した研究 <ul style="list-style-type: none"> ・生物学的・心理社会的手法を用いて、発症機序や病態の解明につながる研究を引き続き推進 ・神経・筋疾患において、原因遺伝子の同定及び分子病態の解明から診断・治療へ発展させゲノム医療を実践 [IRUDなど] ・精神疾患において、神経心理学、生理学、生化学(血液・脳脊髄液オミックス)、脳画像解析学、栄養学、脳組織分子発現解析、腸内フローラ解析を導入して病態を解明し、診断・経過判定に有効なバイオマーカー同定のための研究を推進 ✓実態把握を目指した研究 <ul style="list-style-type: none"> ・罹患、転機その他の状況等の実態及びその推移並びに精神保健に関する疫学研究等を引き続き推進 ・ゲノム関連情報を集約するシステムの運用による外部研究機関等との情報共有化 ・青少年における薬物乱用状況の実態把握 ・発達障害の早期発見手法を開発し、全国の就学前児童の実態を調査し、チック、吃音、不器用等の有病率解明を実施 ✓新たな予防・診断・治療法の確立や効果的な新規治療薬の開発及び既存治療薬の適応拡大等を目指した研究 <ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィーの治療薬の研究開発について、薬事承認を目指して国内及び米国での臨床試験を推進 ・多発性硬化症の治療薬の研究開発について、開発した新規治療薬候補について、医師主導治験を推進 ・患者の社会生活機能とQOLの改善を目指した新規介入法や既存の治療技術について、他施設共同研究等も活用しながら、有効性・安全性に関する研究や社会に応用する研究を引き続き推進 ● 多職種で効果的かつ効率的に活用できる包括的支援マネジメント手法を開発する研究 <ul style="list-style-type: none"> ✓パーキンソン病について、リハビリテーション、心理的サポート、服薬指導など患者の持つすべての問題点を多職種で解決するための方法論を開発し、実践。脊髄小脳変性症など対象疾患を拡大中。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓患者の治療向上につながる多職種連携かつ診療科横断的なチーム医療を推進し、他の医療機関のモデルとなるチーム医療を提供 ● 多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築 ● 神経疾患について、早期診断及び診断後に適切な医療を身近な医療機関で受けられる体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ✓高度かつ専門的な医療、標準化に資する医療の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・精神・神経疾患等について、研究部門と密接な連携の下に、国内外の研究成果を集約し、先進医療を含む高度・専門的な医療を提供 ・他施設での対応が困難な筋病理診断や遺伝子診断等の筋疾患診断サービスを全国の医療機関に向けて提供 ・薬物依存治療に取り組むとともに、男性と異なる複雑な病態と心理社会的特徴を持つ女性の薬物依存症患者については、女性のライフサイクルを踏まえた治療プログラムを開発 ・臨床ゲノム外来を開設し、ゲノム解析に基づき、未診断者への高度な診断サービスを開始 ✓医療の標準化を推進するための、最新の科学的根拠に基づいた医療の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・国際的に効果が証明されている認知行動療法により、従来の方法では治療困難な患者の治療や減薬等を実施 ・医療観察法対象者についてモデル医療を考案・提供 ・重症心身障害児(者)に対して家族のレスパイトも兼ねた健康診断入院や合併症の評価・治療入院を行い、在宅医療を支援 ● 国際化と国際連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ✓海外機関との連携協定・共同研究の推進 ✓外国人研究者の受入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ✓引き続き、精神・神経疾患分野でリーダーとして活躍できる人材を育成 ✓モデル的研修・講習を実施 ✓パーキンソン病薬物療法認定薬剤師制度の新設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民・国民の理解の促進、研究等で得られた情報の公開 <ul style="list-style-type: none"> ✓引き続き、ホームページ上での情報公開や市民公開講座を実施 ● 政策提言の実施 <ul style="list-style-type: none"> ✓引き続き施策に直結する政策提言を実施